

令和5年度 第3回下野市部活動地域移行検討委員会 議事録

審議会等名	令和5年度 第3回下野市部活動地域移行検討委員会
日 時	令和6年2月29日（木） 午後7時00分から8時00分まで
会 場	下野市役所 2階 203会議室
出席者	田澤 孝一 下野市立南河内第二中学校長 田熊 利光 下野市立石橋中学校長 塩沢 建樹 下野市立国分寺中学校長 海老原 忠 下野市立南河内小中学校長 大橋 幸恵 下野市スポーツ協会副会長 大山 茂 下野市スポーツ少年団本部長 村尾 捷利 特定非営利活動法人 元気ワイワイ南河内理事長 金田 幸子 特定非営利活動法人 グリムの里スポーツクラブ理事長 増渕 進 特定非営利活動法人 夢くらぶ国分寺理事長 中川 賢一 下野市文化協会会長 小林 勉 下野市立国分寺東小学校PTA会長 近藤 善昭 下野市教育委員会教育次長

市側出席者（事務局）

高山 正勝	下野市教育委員会事務局教育総務課 課長
石島 直	下野市教育委員会事務局学校教育課 課長
根本 宣明	下野市教育委員会事務局生涯学習文化課 課長
伊藤 隆行	下野市教育委員会事務局スポーツ振興課 課長
森口 哲二	下野市教育委員会事務局学校教育課 課長補佐
田村 正幸	下野市教育委員会事務局生涯学習文化課 課長補佐
渡辺 光浩	下野市教育委員会事務局スポーツ振興課 課長補佐
土田 礼巳	下野市教育委員会事務局学校教育課 主幹兼指導主事
石崎 真清	下野市教育委員会事務局学校教育課 主幹兼指導主事

公開・非公開の別（公開） ・ 一部公開 ・ 非公開 ）

傍 聴 者 0人

報 道 機 関 0人

議事録（概要）作成年月日 令和6年3月18日

【協議事項等】

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ（近藤委員長）
- 3 報告
 - (1) 部活動地域移行コーディネーターについて
 - (2) 令和6年度における部活動地域移行の体制について
 - (3) 市内スポーツ関係団体等における地域クラブでの指導受入について
 - (4) 地域クラブにおける指導者人材バンクについて
- 4 議事
 - (1) 令和6年度に地域移行を実施する部活動について
 - (2) その他

委員長	議事に入る。 始めに、(1) 部活動地域コーディネーターと(2) 令和6年度における部活動地域移行の体制について、事務局説明願う。
事務局 土田	資料 No. 1「下野市部活動地域移行コーディネーター設置規則」について説明。 知見のある方にコーディネーターをお願いすることで、より良い地域移行の在り方を考えていきたい。 資料 No. 2「令和6年度における部活動地域移行の体制」について説明。 令和6年度は、段階的に移行を進めていく。生徒の混乱や保護者の送迎や費用の負担をなくすために、指導者を学校に派遣するかたちで行いたい。指導者への謝金は、公費での負担を検討している。国の地域クラブ活動体制整備事業に申請をしている。これにより必要な補助を受けることが想定される。市の補正予算を活用することも考えている。指導者の募集については、各種団体の呼び掛け、ホームページや広報等で広く周知し、一定の基準を設けた上で、市の学習支援ボランティアの人材バンクに「地域クラブ指導者」という項目を設け、登録してもらおう。地域クラブへの移行は、令和6年9月移行とし、それまでの間は、準備期間とする。部活動顧問の先生方と地域クラブ指導者との連絡調整、生徒や保護者への説明を行うことが必要である。移行にあたっては、責任の所在や学校施設の施設や管理などの懸念材料がある。この準備期間を利用して、すでに移行している先行地域の様子をうかがい、市としての規定を作成する。資料の図は、説明した内容を図式化したものである。顧問の先生方や保護者に休日の練習の様子を見ていただいたり、指導者の方に平日の練習の様子を見ていただいたり、平日や休日に関わっていただくことが想定される。 続いて、連絡体制の図をご覧ください。行政、学校、地域クラブの指導者、部活動地域移行のコーディネーターの役割を図式化したものである。学校教育課は、学校と指導者の連絡調整、諸規定の作成が主な業務である。生涯学習文化課は、人材バンクの管理や文化団体との連絡調整を行う。スポーツ振興課は、指導者募集の周知とスポーツ団体との連絡調整を行

	う。教育総務課は、休日の活動に必要となる設備の整備を行う。部活動地域移行コーディネーターは、部活動顧問の先生方と指導者との連絡調整、休日の活動場所や時間などの連絡調整を行う。保護者への連絡調整は、市のメール配信等のシステムを活用する。
中川 委員	資料No. 2について、指導者を募集する一定の基準は、市としてすでに設けられているのか。
事務局 土田	具体的には、まだ作成していない。先行している地域や国の資料を参考にしながら、学校の先生方からの意見も含めて、市としての基準を作成する。
中川 委員	ガイドラインがどのように受け取られるかは、とても重要なことである。連絡体制の図について、4つの課に分かれているが、窓口がたくさんあり、統括が難しいのではないか。
事務局 土田	部活動地域移行コーディネーターが関係課をつなぐ役目を担うことになる。それぞれの課の特性を生かして、進めていきたい。
中川 委員	お願いをした指導者が連絡調整を行うのか。
事務局 土田	基本は、学校教育課が学校と指導者との連絡調整を行う。コーディネーターが関わりながら、連絡調整を行う。
中川 委員	学校支援ボランティアには、どの程度まで関わってもらえるのか。組織が機能できるように、調整してほしい。
事務局 土田	コーディネーターや学校教育課で、様々な方から意見や情報をいただき交渉を行い、登録をしてもらう流れを作り、人材バンクが機能するようになったら、募集を行い登録を考えてもらえるようにしたい。皆様からいろいろな情報をいただきたいと思う。
金田 委員	コーディネーターの人数を教えてください。
事務局 土田	1名分を予算化している。今後、段階的に増やしていきたい。人数は、先行地域のやり方を参考に考えている。
金田 委員	初めてなので、難しいと思われる。コーディネーターに適任の人材を考える必要がある。
田熊 委員	休日の活動中に、生徒がけがをした場合の対応についてうかがいたい。保険はどのように適用されるのか。
事務局 土田	今後検討していきたい。地域移行が始まる前に、生徒や保護者、先生方に具体的に示したいと考えている。
委員長 事務局	(3) 市内スポーツ関係団体等における地域クラブでの指導受入について、事務局説明願う。
渡辺	資料No. 3「中学校部活動の地域移行に向けたアンケート調査の結果」について説明。
村尾 委員	指導者資格の有無も調査するとよかったのではないか。足利市では、教員免許を授与された経験や指導者資格の取得、部活動の指導経験など、登録の条件を具体的に示している。県においても、登録の基準が細かく示されている。

事務局 土田	県の基準は厳しい条件となっている。先行地域では、県の部活動指導員までの資格は求めているところもある。他市町の様子も参考にしながら、下野市の資格要件を設定していきたい。
村尾 委員	資格を取得している人は、研修を受けていることが考えられる。競技経験が長い場合、技術面の指導はできると思う。しかし、教育の一環と考えると、研修を受けていたほうがよい。
事務局 土田	指導者として登録していただいた場合は、市で実施する研修を受けていただくことを考えている。
委員長 事務局	(4) 地域クラブにおける人材バンクについて、事務局説明願う。
田村	資料 No. 4「地域クラブにおける指導者人材バンク」について説明。 学校支援ボランティアは、生涯学習情報センターで行っている事業である。これまでの学習の成果を生かして、地域ぐるみで子供を育てるようなボランティアである。内容は、学習活動や体験活動など、多岐に渡っている。これは、登録の中から吹奏楽と美術に関するものを抜粋した資料である。部活動の指導者として登録していただくためには、現在の登録様式の内容を変更する必要があるため、今後検討していきたい。
事務局 根本	現在の学校支援ボランティアの登録は、部活動支援の登録ではない。登録している方には、部活動支援への協力ができるかどうか、登録様式の変更と合わせて確認する必要がある。登録様式を変更することで、人材が増える可能性も考えられる。
中川 委員	学校がどのような人材を求めているのかを市から発信すると、文化部についても登録する人材が増えるかもしれない。
事務局 根本	登録の様式に、補足事項を入れて、登録できるようにしたい。また、登録する前に、詳しく説明を行い募集を行うなど、工夫していきたい。
中川 委員	最初からハードルを高くしてしまうと、募集することが難しい。先行して外部指導者を活用している部活動の事例を参考にできるとよい。
塩沢 委員	受け入れたい団体へのアプローチは、どのように行うのか。
事務局 渡辺	人材バンクに登録していただき、運営を行う中でコーディネーターがコーディネートしていくことが考えられる。
委員長	今後、正式な手順を踏んでアプローチを行う。続いて、議事に入る。 (1) 令和6年度に地域移行を実施する部活動について、事務局説明願う。
事務局 土田	事務局より、案を提示。
田澤 委員	外部指導者が入っている部活動がある。そのため、地域移行がしやすいのではないかと考える。
田熊 委員	指導者として保護者が関わっている部活動があり、クラブで指導を受けている生徒もいる。

塩沢 委員	総合型のスポーツクラブで、指導を受けている生徒がいる。指導者の方と関わりがあるため、指導を受けやすいと考えられる。
海老原 委員	生徒が小学生から通っているクラブがある。また、外部指導者が入っている部活動もある。連携を図ることができれば、移行もしやすいと考える。
中川 委員	学校からアプローチ行うことがよい。何らかのつながりがあるのは、理想的である。
大山 委員	1団体ずつ移行するのがよい。学校にない部活動に入りたいと考える子供たちにも、糸口を広げられるとよい。小学生の時に、スポーツ少年団等で指導を受けている子供も多いため、対応できると思う。
委員長	今後、各学校段階的に移行を進めるかたちでよろしいか。 これにて本日の協議を終わる。ご協力に感謝する。 本日の議事が全て終了した旨を告げる。

5 閉会